中津川辺地に係る総合整備計画書

山形県飯豊町中津川辺地
（辺地人口２２７人、面積１９８．５ｋ㎡）

１．辺地の状況

（１）辺地の構成する町又は字の名称
飯豊町大字岩倉、高造路、川内戸、白川、上屋地、下屋地、上原、遅谷、宇津沢、数馬、須郷、小坂、広河原、小屋
（２）辺地の中心位置　飯豊町大字下屋地２３９番地
（３）辺地度点数　２２８点

２．公共的施設の整備を必要とする事情

当該辺地は、本町の南端に位置し、本町面積の６０．３％を占めているが、経営耕地面積が１％程度と少なく林野率が９０％程度とほとんどが森林原野で占められている。

また、冬期間は３ｍを超える特別豪雪地帯となっており、人口は全町の３．４％と面積に比し極端に少なく、特に豪雪山間地に位置し極めて辺地度の高い地区である。一方で、当該辺地には白川湖周辺を中心に宿泊施設や源流の森などの観光施設が整備されており、本町にとって有力な観光拠点となっている。

そのため、次の公共的施設の総合的かつ計画的な整備を進めながら、地区住民の生活水準向上を積極的に推進するものである。

（１）交通・通信体系の整備

①農道及び林道

林道飯豊桧枝岐線は、山形県飯豊町中津川地区と福島県喜多方市山都地区を結ぶ路線であり、人的交流、物流、観光面など多面的な機能を有している。平成２５年６月に全線開通となるまで、着工から３０年以上の歳月が費やされたこともあり、本町内の区間の一部には、通行危険個所があることから、通行車両等の安全を確保するため、道路法面の改良や橋梁点検及び補修工事等の安全対策を実施する。

（２）産業の振興

①観光又はレクリエーションに関する施設

当該辺地は、平成２５年６月に開通した林道飯豊桧枝岐線により、福島県会津地域と置賜地域を新たに結ぶ玄関口として、置賜地域の観光振興に大きく寄与している。

また、コロナ禍以前は台湾を中心とした諸外国からのインバウンド旅行者も多く訪れており、交流人口の増加に大きく寄与している。

さらに、近年は春先に満水となった白川湖畔周辺の水没林でのカヌー体験など、新たな観光資源として注目され、人流の増加による交流人口の更なる増加が期待される。

一方で、白川湖畔周辺の観光施設については、インバウンド対策や新しい観光ニーズに対応するための整備が遅れており、これらの対応が課題となっていることから、白川湖周辺のさらなる集客と、これに基づく地域の活性化を図るため、新たなレクリエーション拠点施設の整備を行う。

３．公共的施設の整備計画

令和４年度から令和８年度までの５箇年間

（単位：千円）

施設名	事業主体	区分			
		事業費	財源内訳		一般財源のうち辺地対策事業債の予定額
			特定財源	一般財源	
（１）交通・通信体系の整備		**315,000**	**169,900**	**145,100**	**145,100**
①農道及び林道	飯豊町	315,000	169,900	145,100	145,100
（２）産業の振興		**935,000**	**0**	**935,000**	**935,000**
①観光又はレクリエーションに関する施設	飯豊町	935,000		935,000	935,000
計		**1,250,000**	**169,900**	**1,080,100**	**1,080,100**